



今月号は、「教育委員会事務局主催のワークショップ・フォーラムの報告」と、「教職員版フレックスタイム制度の試行の報告」です。

Topic ①

報告「明日からの一歩へ 教職員の働き方改革ワークショップ」(2月20日)

参加した教職員にとって、明日から取り組める一歩になるように、昨年度までのフォーラムという形から、実践的なワークや意見交換を中心としたワークショップ形式で実施しました。当日の様子や参加者の感想等をご紹介します。

目的

働き方改革に取り組む意識を広げるとともに、働き方改革に関する社会的な機運を醸成します。

参加者

一般の教職員 **28名**

会場

富士通エフサス
Innovation & Future Center

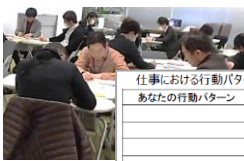
主幹教諭 13名 養護教諭 1名
教諭 7名 学校事務職員 7名



ワークショップ

ファシリテーター 岸本伴恵氏
富士通エフサス

① 今の自分の仕事における行動パターンを重要性と緊急性で分析しました

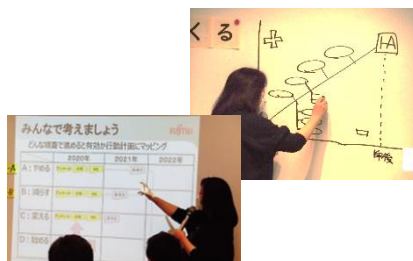


仕事における行動パターンを書き出してみよう
あなたの行動パターン

	第1領域	第2領域
第3領域		
第4領域		

研究や自己研鑽は、緊急ではないけれど、重要な行動パターンに入りました。

③ 実際に職場で進めていくためのロードマップを作成し具体化しました



アイデアは出たけど、なかなか進みません...こんな課題に対応できるかも。

⑤ 妹尾昌俊氏から総評をいただきました



Point 一つの業務をもう少し分解して削減できる部分を検討してみましょう

Point 実は学校裁量で変更されることもあるので根拠を確認してみましょう

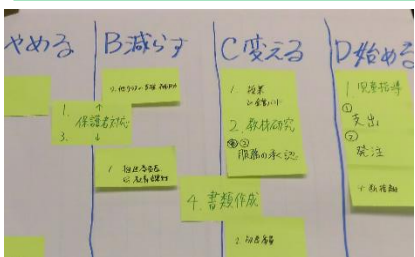
Point 教職員一人ひとりのキャリアやライフスタイルを大切にしましょう

Point たまには、自分のために時間を使いましょう

Point 誰が、いつまでに、何をするかを決め進捗管理をする場をつくりましょう

Point 学校全体の組織だった取組にして市全体に広げていきましょう

② 「やめる、減らす、変える、始める」の4つに業務を分類しました



参加した皆さんが「やめたい」と思っている仕事が少ないことを発見。

④ 「明日からの一歩へ 自分ができていること」を参加者同士で発信し合いました



参加者の声 (電子申請システムによるアンケート集約より一部抜粋)

○ 学校で教職員の働き方改革を進めるにあたり、何から実践しますか。

来年度の資料作成時に会議日数や方法の意見出しをする。働き方改革に関して、私たちの仕事は、教育的意義は高いが、見直さなくていいわけではないと思う。

業務の精選や削減に取り組みたいと思っている。そのための方向性決めや、アイデア出しのワークショップ(管理職も含めた全職員参加型)を企画したい。

学校行事の実施時期の変更について、職員の総意を得られるような原案を作成していく。

○ 全体を通じての意見や感想等

減らす、やめるに向けたプロセスのつくり方と進め方が、とても参考になった。

アイデア出しだけで終わらず、実現に向けて具体的なロードマップを描いていくというお話は大変共感でき、自校においても注意すべきポイントであると感じた。

横浜市という大きな自治体で、現場に働き方改革を浸透させていくことは並大抵なことではない。これからも、情報を発信してもらい、現場が自分ごととして気づけると、少しずつ前に進んで行くような気がする。

② 報告「みんなの働き方フォーラム」(1月17日)

持続可能な働き方を目指した共同研究及び研修開発を、立教大学教授 中原淳 氏と進めてきました。研究データと新任校長研修で取り組んだ実践事例等をもとに、これからの教職員の働き方を考えるフォーラムを行いました。

シンポジウム：実践事例から考える働き方改革の鍵

師岡小学校 「無理なく働き続けるためのプロジェクト」

- 「持続可能な働き方プロジェクト DVD」を観て、人生を考えるきっかけに
- 職員の思いを見える化することで、課題を共有
- 時間を守ることを実践して、意識を作る
- 改革は、短期と長期の2通りで
- 改革を継続する



小田中学校 「持続可能な働き方」

＝教職員自身の意識改革とスキルアップ

- データ(教職員アンケート)をもとに課題解決のヒントを出し合う
すぐできること・できないこと、誰が(どこが)、いつまでに提案するのかがわかると、動いていく
- データから授業研究・改善のための時間が必要であるとわかり、より一層授業改善意識が高まった

「新任校長研修」を受けた校長先生の学校で実際に取り組んだ主な業務改善等を、ほんの一部ですが、紹介します！

時間に対する意識を変える	会議等、16：45に一度中断して声かけ/「定時で帰ります札」/学年そろって帰る日の設定
働き方を考える	プロジェクトチームの振り返りを2か月に1回開催/自由意見を書き込むボード設置
会議の改善	事前の資料配布・読み込み/開始・終了時刻等を表紙に明記/提案時間の設定/1会議30分
組織	期限付きプロジェクトチーム化/全員が主任をするようにして業務の平準化
業務改善	業務分担等の負担分散/環境整備・身の回りの整頓日の設定/データ共有のルールと見直し/共通フォームの電話引き継ぎメモ/集金(写真・教材等)方法の変更/アウトソーシング検討
その他	ICT活用/安らぎコーナー設置(子どもも教職員もホッとする空間)/時程・時間割の変更/教材研究日(会議なし)を設定/一斉丸付けタイム/夏休みのプール指導の検討/門当番改善/外部講師を招き、部活動での休養日の必要性についての研修を開き、理解を深める/学校運営協議会、PTA運営委員会で自校の現状と働き方改革に取り組んでいることを紹介/

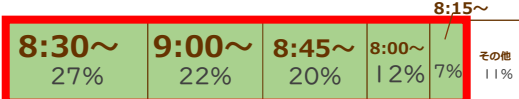
③ 報告「教職員版フレックスタイム制度」の試行実施

～令和元年度の実施報告と令和2年度の試行内容のお知らせ～

令和元年度に試行実施をした「教職員版フレックスタイム制度」の利用実績やアンケート結果(一部抜粋)、現場の工夫などをお伝えします。今年度の試行を踏まえ、令和2年度も一部拡充し、試行を実施します。

利用実績(12月分まで)

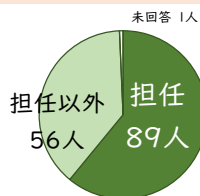
a 勤務パターン：勤務開始時刻



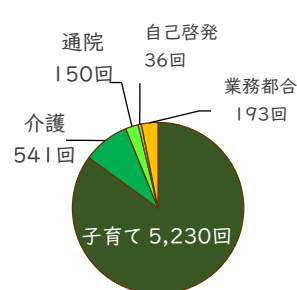
- 約9割は、8：00～9：00の時間帯に出勤
- 「児童生徒の在校している時間は勤務」というパターンを多く利用

b 担任の有無

担任をもちながら利用した人が6割います。(アンケート結果より)



c 事由別の利用回数



子育てが85%、介護が9%で、計94%を占めます。

d アンケート結果概要

- 非利用者から見て
「不都合や他の教職員の負担」は「感じなかった」【約75%】
- 管理職から見て
・「他の職員の反応」は「概ね好意的・協力的」【約63%】
・「学校運営上の問題」は「問題が生じなかった」【約66%】

前記a～dから、学級担任など学校の実態に合わせた無理のない範囲での利用が多いと考えられます。

学校現場の工夫や効果

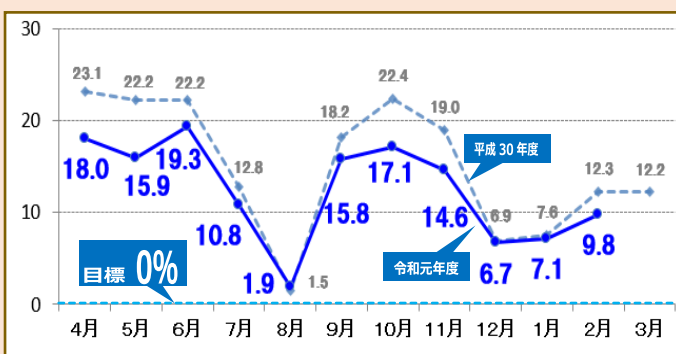
- ・朝、時間に追われる精神的負担が軽減した。
- ・朝の打合せに参加できないため、情報共有にグループウェアを使った。
- ・事前にその時間(朝など)に行うことを確認し、担当できる教職員を決めておいた。
- ・負担はあるが、校内組織でやりくりして助け合っている。
- ・不安に思う保護者の方がいたが、直接お話しして納得していただいた。

令和2年度 試行内容(変更点は下線)

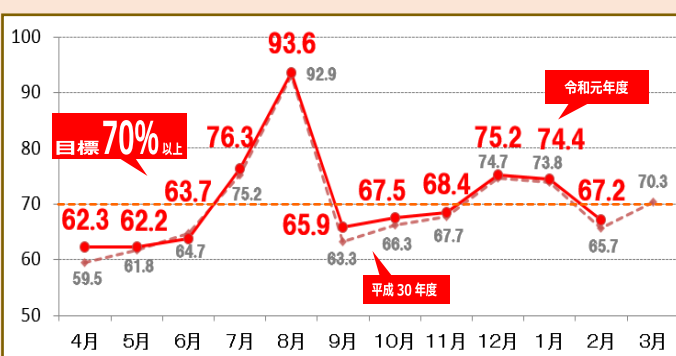
対象職場	全ての小・中・特・義務教育・ <u>高等学校</u>
利用要件	子育て(小学生以下、 <u>中学生</u>)、介護、通院、自己啓発、業務都合、 <u>その他(長期休業期間：要件を限定しない)</u>
上限回数	月5回(業務都合の場合は上限なし) *子育て(小学生以下)・介護の特例措置として <u>④～⑥の場合は上限なし</u> ⑦⑧の場合は月12回 (④8：00～⑤8：15～⑥8：30～ ⑦8：45～⑧9：00～)
申請(申告)	原則2日前まで

(1) 「教職員の働き方改革プラン」達成目標との比較・推移 (令和2年3月13日時点)

項目				目標
時間外勤務月 80 時間超の教職員の割合				0%
令和2年2月実績				参考値 高等学校
平均	小学校	中学校	特別支援学校	
9.8%	4.9%	21.9%	1.0%	12.9%
前年比 😊 -2.5	😊 -2.6	😊 -2.8	😞 +0.2	



項目				目標
19 時までには退勤する教職員の割合				70%
令和2年2月実績				参考値 高等学校
平均	小学校	中学校	特別支援学校	
67.2%	63.7%	70.1%	85.3%	78.6%
前年比 😊 +1.5	😊 +1.8	😞 -0.7	😊 +1.1	



(2) 時間外勤務 (令和2年2月) の詳細

◇ 時間外勤務の割合 (全校種平均)

年度	80時間超	45時間超 80時間以下	45時間以下
平成31年2月	12.3%	38.3%	49.4%
令和2年2月	9.8%	36.1%	54.1%

◇ 時間外勤務の割合 (校種別割合)

月あたり 時間外勤務	小計		小計		小計
	100時間超	80時間超 100時間以下	80時間超	45時間超80時間以下	45時間以下
小学校	0.9%	4.0%	4.9%	39.6%	55.5%
前年比	-0.4	-2.2	-2.6	-3.3	+5.9
中学校	10.3%	11.6%	21.9%	34.0%	44.1%
前年比	-1.5	-1.3	-2.8	+0.2	+2.6
特別支援学校	0.5%	0.6%	1.0%	11.6%	87.4%
前年比	+0.3	±0	+0.2	-2.5	+2.3
平均	3.8%	6.0%	9.8%	36.1%	54.1%
前年比	-0.6	-1.9	-0.5	-2.2	+4.7
【参考値】 高等学校	7.9%	5.0%	12.9%	25.3%	61.8%

3月は一斉臨時休校の対応もあり、「家庭と学校をつなぐ情報共有システム」の必要性を改めて感じました。今年度の試験導入の結果を踏まえ、令和3年度に全校で本格導入することを目指し、令和2年度はシステムの構築及び導入に向けた準備を進めます。また、約200校のプール清掃を事務局一括で外部委託します。

令和2年度も、教育委員会事務局や教職員一人ひとりが「それぞれの立場で」「自分のこととして」働き方改革に前向きに取り組み、子どもたちや保護者・地域の皆様の笑顔をつくっていきましょう。